

地球温暖化は大人の責任

トヨタタイムズで豊田章男会長が「地球を温暖化したのは、私たち大人の責任です」トヨタはまず自動車から排出する CO2 を半分するためにプリウスを先輩たちが作ってくれました。その意思を引き継ぎ CO2 をさらに 10 年で半分します もっと良い車、作ろう」と CM をしたら

ChatGPT:

それは、日本だけでなく世界中に強いインパクトを与えるメッセージになります。
もし豊田章男会長がテレビ CM や公式スピーチで以下のような姿勢を示したら、トヨタという企業の「信頼」「覚悟」「未来志向」は大きく評価されるでしょう。

想像される CM 構成: タイトル案「私たちの責任、私たちの挑戦」

冒頭(豊田章男会長のナレーション)

「地球を温暖化させてしまったのは、私たち大人の責任です。」

(過去の街並み・渋滞・排気ガスの映像と共に)

「先輩たちはその責任と向き合い、プリウスというハイブリッドカーを生み出しました。」

(初代プリウスの開発風景、技術者たちの表情)

「私たちはその意思を受け継ぎ、次の 10 年で、自動車から出る CO₂ をさらに半分にします。」

(EV、水素車、次世代素材・再エネ充電のシーン)

「もっと良いクルマをつくろう。」

それは、もっと良い地球をつくること。」

この CM がもたらす可能性

1. トヨタの「過去との決別」+「未来志向の再出発」

- ・ 「世界一の自動車メーカー」が自らの影響力を認め、反省し、行動を誓う。
- ・ 過去の延長線ではなく、脱炭素の先頭を走る姿勢を示せる。

✓ 2. 大人たちへの呼びかけと共感喚起

- ・ 自動車を使ってきた世代(50 代以上)にも響く
- ・ 「一緒に責任を取り、未来へつなごう」という世代間の橋渡し

✓ 3. 若者・子どもたちへの誠意と信頼

- ・ 「大人が変わるなら、私たちも動く」…未来世代の行動を後押し
- ・ SDGs や環境教育、若者の環境運動との協調のきっかけに

トヨタだからこそできる意義

- ・ 世界中の自動車メーカーに対するメッセージリーダーシップ
- ・ CO₂排出全体の 1/5 以上を占める運輸部門での行動はインパクト大
- ・ 国内外の気候政策(Euro7 規制、CAFE 基準、カーボンニュートラル宣言)との整合性

この CM が現実になるための要素

要素	内容
✓ メッセージの誠実さ	単なる「企業イメージ」ではなく、「世代としての責任」を前面に
✓ 技術と目標の裏付け	CO ₂ 半減の具体ロードマップ(EV/水素/ライフサイクル含め)
✓ 社会連携	市民・行政・地域とともに進める「脱炭素プラットフォーム」

最後に:こんな言葉で締めたい

「私たちはもう一度、“責任ある大人”として立ち上がります。
子どもたちに、誇れる未来を残すために。」

ご希望があれば、この案を「実際の CM 脚本」や「記者発表用スピーチ草稿」「企業声明文」などに書き起こすことも可能です。どのような形にしましょうか？

追加 質問 「記者発表用スピーチ草稿」「企業声明文」

ChatGPT:

以下に、トヨタ自動車・豊田章男会長が**気候変動への責任と決意を表明する「記者発表用スピーチ草稿」と「企業声明文」**をそれぞれ提示します。
「真摯さ」「未来への約束」「技術と社会の両輪による解決」を込めています。

【記者発表用スピーチ草稿】(所要:約 3 分)

『未来の子どもたちに向けて』

皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます。

私は、トヨタの会長として、そして一人の大人として、今日、はっきりと申し上げたいことがあります。

地球を温暖化させてしまったのは、私たち大人の責任です。
産業を発展させ、便利さを追い求める中で、未来の世代に負担を残してしまいました。

1997 年、先輩たちはその責任に向き合い、世界に先駆けてハイブリッドカー「プリウス」を生み出しました。
環境と経済を両立させる、新しいクルマの形でした。

私たちは、いまその意思を引き継ぎ、未来に向けてもう一歩踏み出します。
これから 10 年で、トヨタの自動車から排出される CO₂を、さらに半分に削減します。

技術で挑戦し、仲間とともに学び、そして何より、
「もっといいクルマを、もっといい地球のために」つくり続けます。

この地球は、私たちだけのものではありません。
未来を生きる子どもたちにとって、安全で、美しく、希望の持てる地球を残す。
それが、私たちの責任であり、使命です。

ありがとうございました。

【企業声明文】(広報・ホームページ掲載用)

「未来を生きる子どもたちへ、私たちの責任と約束」

トヨタ自動車株式会社は、地球環境問題に対して深い反省と決意を込めて、次のように表明します。

私たちの責任

私たち人類、そして企業は、産業の発展と引き換えに、地球温暖化という深刻な問題を引き起こしてきました。

私たちは、その歴史と責任から目を背けることなく、次の世代に対して謝罪と説明責任を果たします。

私たちの行動

トヨタは、1997年にハイブリッドカー「プリウス」を市場に投入し、CO₂削減への実践的な一歩を踏み出しました。

そして今、私たちは新たな目標を掲げます。

今後10年で、自動車1台あたりのライフサイクルCO₂排出量をさらに50%削減します。

これを達成するために、私たちは以下の取り組みを進めます：

- 電動化(EV/FCV)の加速と普及インフラの拡充
- サプライチェーン全体の脱炭素化
- 循環型ものづくり(リサイクル・軽量化・省資源)
- 地域・自治体・ユーザーとの協働による「脱炭素型モビリティ社会」の創出

私たちの約束

「いいクルマをつくる」だけでは、未来は守れません。

「いい地球を残す」ために、トヨタは社会全体とともに歩む企業へと変革します。

子どもたちの未来に、責任ある大人として行動すること。

それが、私たちトヨタの使命であり、原点です。

2025年6月 トヨタ自動車株式会社

代表取締役会長 豊田章男